

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 華陽フロンティア高等学校 学校運営協議会 (第3回)
- 2 開催日時 令和7年2月4日(火) 13:30～15:30
- 3 開催場所 華陽フロンティア高等学校 本館1階 会議室
開催にあたり、委員による新校舎の見学を実施した
- 4 参加者

会長	安田 和夫	岐阜聖徳学園大学教育学部 教授
副会長	廣瀬 富久夫	本校同窓会 会長
委員	臼井 悟	鶴自治会連合会 会長
	東山 志津香	本校校友会 会長
	菱沼 三佳	本校PTA 会長
	南谷 東子	人権擁護委員
	吉井 貴子	地域創生キャリアプランナー
	学校側	大和谷 淳
	野田 美奈子	副校長
	有田 美穂	事務部長
	辻 昌宏	教頭(定時制課程)
	野田 潤哉	教頭(通信制課程)
	山村 奈美子	教務主任(定時制課程)
	牧田 篤弥	生徒支援部長(定時制課程)
	高橋 睦志	進路支援部長(定時制課程)
	小久江 貴子	教務主任(通信制課程)
	立花 侑司	生徒指導部長(通信制課程)
	後藤 尋史	進路渉外部長(通信制課程)
	浅井 美智子	研修主事(通信制課程)

5 会議の概要(協議事項)

○新校舎の概要説明、見学(新校舎見学)

(1) スクール・ミッション

〔定時制課程〕

意見1: スクール・ミッションが誰に向けて発信するかによって、その対象者にとって分かりやすいと思われる言葉を使うとよい。

意見2: 「多部制」という言葉は、教員なら理解できるが、一般の人には馴染みがない言葉である。「三部制」の方が分かりやすい。

⇒教育委員会と協議する。

意見3: 「定時制高校として」という言葉があるが、あえて「定時制」と明記しないで、区別なく「学校」とした方がよい。

⇒「多部制の定時制高校」で一つの表現となっている。

○概ね教育委員会からの修正案で承認を得た。

〔通信制課程〕

意見4：「自己肯定感・自己有用感」は個々の目標だと考えられる。今の時代、個人主義も一定数はあると思うが、社会に出たら、横のつながりが大事になる。そういった「横のつながり」についても、大事にしてほしい。

意見5：限られた文字数、言葉でどう表すのか、大変難しい。「社会的自立」という言葉に、集団的な活動も含められるような言葉が他にあるのか、検討が必要である。

意見6：「職業的自立」を削除した理由を知りたい。

意見7：すっきり読みやすくなり、素晴らしい内容になった。

○教育委員会からの修正案で承認を得た。

(2) 自己評価・学校関係者評価

意見8：定時制課程において、新入生の長欠者を25%未満に減少させることを今年度の目標としていた。約16%に抑えることができたのは、教員が生徒一人一人に寄り添って指導しているからこそ実現できた数値だと考えられる。

意見9：「今、何を学ぶと楽しいか」という観点で授業を行うことができるとよい。生徒の学習到達目標は、生徒の現状を見て、適切なレベルで行ってほしい。

意見10：評価の規準を変えることはできないが、個に応じた指導ができていると思う。

意見11：通信制課程の教員研修で、自立活動の研修の取組はユニークで素晴らしい。小中学校の児童生徒への指導も、特別支援教育の自立活動を参考にして行われている。

6 会議のまとめ

- ・今年度の取組について、活発な意見交換を行った。
- ・定時制のスクール・ミッションについて、委員からの修正案を教育委員会と協議し、「多部制」から「三部制」に変更した。
- ・通信制のスクール・ミッションについて、全委員から承認を得た。
- ・本校の教育活動に寄せる期待や要望を多く聴くことができる貴重な機会となった。委員の様々な意見を来年度の取組に活かしていきたい。